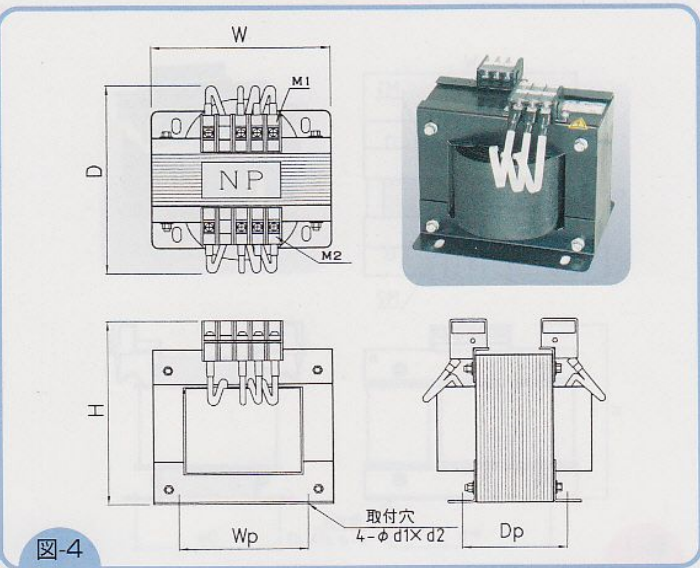
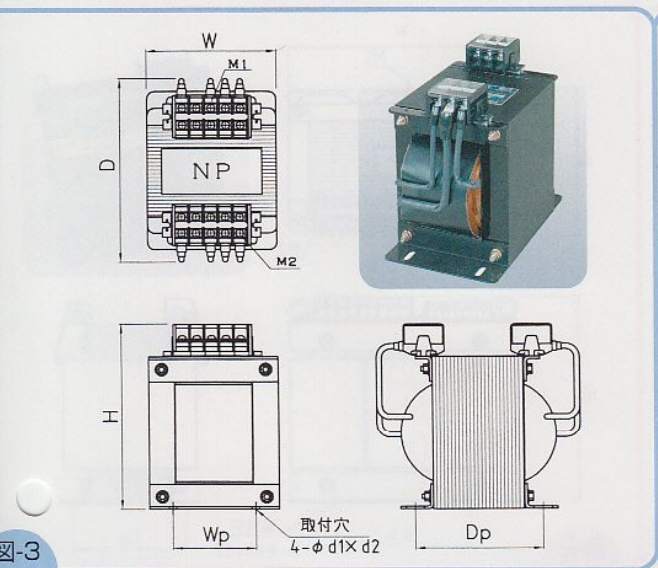
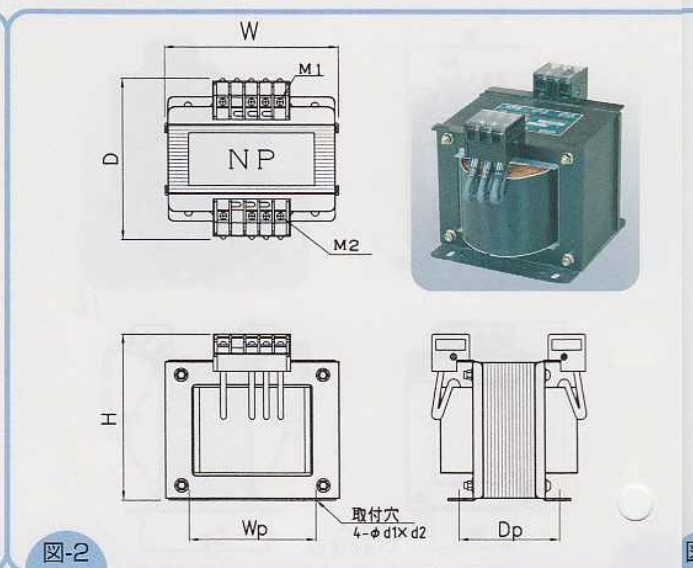
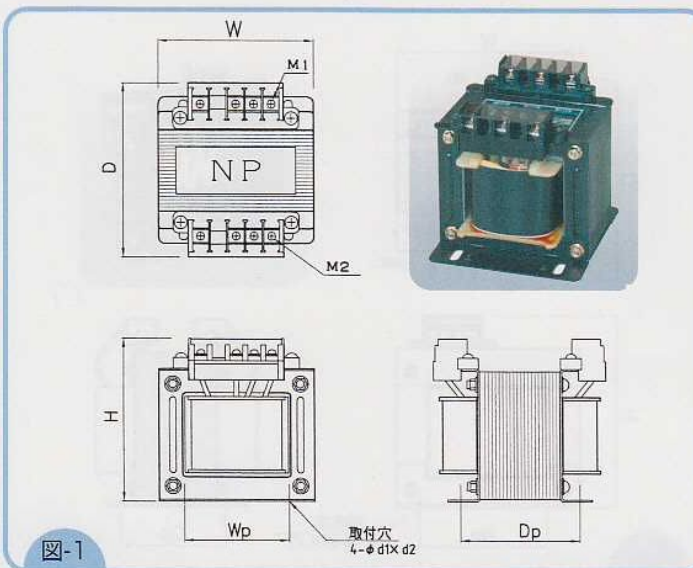


WTP-YM

1次電圧 200,220,240V

2次電圧 100,110,115V

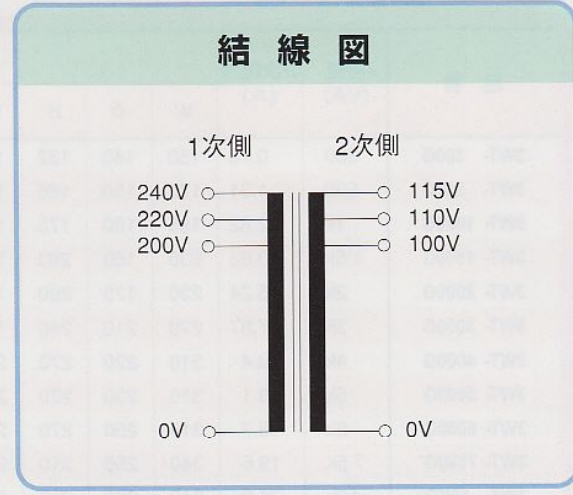


1. 図および写真は、代表例ですので現品と細部で異なる場合があります。 2. 表中記載の寸法・重量は、概略値ですので多少の差異はご了承下さい。

WTP-YM 単相複巻

品番	容量 (VA)	2次電流 (A)	寸法 (mm)										耐熱クラス	端子種別	図面番号	質量 (kg)	屋内ケース入			屋外防滴ケース入		
			W	D	H	Wp	Dp	d1	d2	M1	M2	品番					箱番	質量	品番	箱番	質量	
WTP- 50YM	50	0.43	79	98	87	55	70	5.5	10	4	4	A	ブロック	図-1	1.7	WB- 50YM	2	3.3	WBO- 50YM	204	6.2	
WTP- 100YM	100	0.86	96	98	102	65	64	5.5	12	4	4	A	ブロック	図-1	2.7	WB- 100YM	2	4.3	WBO- 100YM	204	7.2	
WTP- 150YM	150	1.3	96	108	102	65	74	5.5	12	4	4	A	ブロック	図-1	3	WB- 150YM	2	4.6	WBO- 150YM	204	7.5	
WTP- 200YM	200	1.73	106	108	109	72	77	6.5	15	4	4	A	ブロック	図-1	3.7	WB- 200YM	2	5.3	WBO- 200YM	204	8.2	
WTP- 300YM	300	2.6	119	113	118	80	75	7	11	4	4	A	ブロック	図-1	5	WB- 300YM	2	6.6	WBO- 300YM	204	9.5	
WTP- 500YM	500	4.34	152	140	147	111	78	7	11	4	4	A	ブロック	図-2	7.3	WB- 500YM	3	9.8	WBO- 500YM	206	19.3	
WTP- 750YM	750	6.52	152	165	147	111	98	7	11	4	4	A	ブロック	図-2	9.5	WB- 750YM	4	13.2	WBO- 750YM	206	21.5	
WTP-1000YM	1k	8.69	152	180	147	111	118	7	11	4	4	A	ブロック	図-2	12.6	WB-1000YM	4	16.3	WBO-1000YM	206	24.6	
WTP-1500YM	1.5k	13	143	200	207	90	140	7.5	20	5	5	A	ブロック	図-3	20	WB-1500YM	5	25.0	WBO-1500YM	206	32.0	
WTP-2000YM	2k	17.3	143	230	207	90	170	7.5	20	5	5	A	ブロック	図-3	24.2	WB-2000YM	5	29.2	WBO-2000YM	206	36.2	
WTP-3000YM	3k	26	160	250	228	90	170	7.5	20	5	5	A	ブロック	図-3	31.5	WB-3000YM	6	38.1	WBO-3000YM	206	43.5	
WTP-4000YM	4k	34.7	250	240	261	180	130	12	21	5	6	B	ブロック	図-4	39.4	WB-4000YM	7	48.6	WBO-4000YM	208	55.4	
WTP-5000YM	5k	43.4	250	260	261	180	150	12	21	5	6	B	ブロック	図-4	48.5	WB-5000YM	7	57.7	WBO-5000YM	208	64.5	

※屋内ケース入 (WB)、屋外防滴ケース入 (WBO) の形状寸法は21~22ページを参照ください。
 ※機能・性能の改良などにより予告無く仕様変更される場合があります。正しくは、個別仕様図をご参照下さい。



単巻変圧器と複巻変圧器の違い

参考 1

1. 複巻変圧器
 複巻変圧器は最も一般的な変圧器で、鉄心に1次巻線と2次巻線が絶縁されて巻かれています。1次と2次は絶縁されておりまして1次側の接地方法に関係なく2次側の接地を任意に行えます。2次側を接地せずに使用する場合など、1次2次巻線間の静電容量による2次巻線への電圧移行を軽減することを目的とした静電シールド付き変圧器があります。
2. 単巻変圧器
 単巻変圧器は、複巻変圧器に比べ小型・軽量になり経済的ですが、使用方法に制限があります。単巻変圧器は、1次2次巻線の一部を共用するもので、1次2次がつながっています。2次側で接地すると接地短絡になる場合があります大変危険です。(単巻変圧器の2次は接地しません) 単巻変圧器は原理上1次2次の電圧差が大きくなると特徴が発揮できなくなります。電圧差が2分の1以内の場合に長所が発揮できます。電源電圧を少し変化させたい場合など最適です。たとえば、100Vの電源を110Vにしたい場合、複巻変圧器のほぼ10%の大きさで製作できます。

参考 2

静電シールド付き変圧器とは

複巻変圧器で2次側を非接地で使用すると、1次巻線と2次巻線間の静電容量(コンデンサ作用)によって、2次側と対地間に電圧が誘起されることがあります。この誘起電圧の発生や、電源側もしくは負荷側で発生するノイズの伝播を軽減させる目的としたものが静電シールド付き変圧器です。静電シールド付き変圧器は、1次巻線と2次巻線の間に銅板(シールド板)を挿入したもので、シールド板を接地できるように端子を設けてあります。(弊社ではSEと端子記号を付けており、SEを接地しないと静電シールドの効果がありません。)
 ★上記の静電シールド付き変圧器を、「混触防止板付き変圧器」と言われる場合があります。本来、混触防止板とは、異なった電圧階級(たとえば6KVの高圧と200Vの低圧など)にまたがって変圧する場合に1次2次間の絶縁破壊によって低い電圧階級の回路に高い電圧階級の電圧が混入し回路の絶縁を破壊するのを防ぐ目的で設けられるもので、構造は静電シールド付き変圧器と同じですが、挿入する銅板が電流を流せるように厚いことと、混触防止板はB種接地するように定められていることが異なります。(低圧回路の静電シールド板はD種接地でよい)
 ☆従って、低圧回路の変圧器では静電シールド付き変圧器といえます。